

シグマ研究委員会
核融合核データ・ワーキング・グループ
¹⁶O核データ・サブ・ワーキング・グループ会合議事録

開催日時 昭和58年8月9日
開催場所 東海研 研究2棟335室
出席者 田中茂也, 浅見哲也, 中島 豊, 柴田恵一, (原研), 村田 徹 (NAZG)
神田幸則 (九大)

配布資料

- (1) RESCANによる計算結果
- (2) ¹⁶O (n, n') の Evaluation (中間報告)
- (3) ¹⁶O (n, n) の計算法について

議 事

- (1) RESCALによる計算

資料を許に計算結果が説明された。(中島)

$E_R \simeq 440$ keV の共鳴の裾は Perey (1972) に合うが全体は合わない。試料が厚いためと思われる。よく用いられる Okazaki (1952) は E_R の価がずれていると思われる。

入力パラメータを変化させて計算し、実験値との比較をする。(中島, 浅見, 柴田)

- (2) σ (n, n') の計算

CASTHYによる計算結果が資料を用いて説明された。(田中)

Optical model のパラメータ W を小さくする必要がある。

ENDF/B-IV, -V では使われていない Nordborg (1978) のデータが有効である。

最終評価値を求める方針が詳しく示され、議論された。

- (3) σ (n, n) の評価への提案

Single level Breit-Wigner 公式と、Shell model を基本にした計算法の説明があった。(村田)

簡単なModelで試算した結果は実験値によく合う。

評価に使用出来そうである。

(4) 角度分布等

$\sigma(n, n)$, $\sigma(n, n')$ の角度分布は測定が少なく systematicsも決め難い。しかし、これ等を基礎にして計算で内外挿する方法をとらざるを得ない。

接近した level をまとめて評価することの問題が議論された。

(5) 評価の方針の確認

σ の種類, En 範囲について個々に評価方法を決めた。この方法に従って全体をまとめることとした。

(6) 次回 8 月 26 日 東海を予定する。